

DUO 2020

Vol.
45

♪「デュオ」は英語で二重唱（奏）の意味です。

寄稿

男女共同参画社会に向けて

男性はどう考え、行動すべきか

京都産業大現代社会学部 教授 伊藤 公雄

特集

いつ遭うかわからない「災害の時代」



男女共同参画社会に向けて

男性はどう考え、行動すべきか

京都産業大現代社会学部

教授 伊藤 公雄



大阪大教授、京大教授（いずれも名誉教授）を経て2017年度から現職。専門は社会学的文化現象論やメディア論、ジェンダー論。現在、日本学術会議会員、京都、滋賀両府県の男女共同参画審議会会長などを務める。「できない男」から「できる男」へ、「男らしさ」のゆくえ～男性文化の文化社会学など著書多数。

ここ十五年ほど、日本の企業などで「ダイバーシティ」という言葉が広がっている。多様性という意味だ。ダイバーシティの必要理由は、まず人権と社会的包摂（社会的に不利な条件におかれた人々の社会への組み込みの仕組み）の必要性があげられる。多様な差別や社会的排除の構造を変革し、あらゆる人の人権が認められる社会への転換が求められたのだ。特に近年、格差社会の広がりや国境を超えた人の移動がはげしくなる状況のなかで、多様性・寛容性の文化の必要性が強く求められているのである。

他方で、近年ダイバーシティをめぐって新しい位置付けがなされるようになってきている。つまり、社会や組織の活性化のためにダイバーシティが不可欠だ、という声が広がっているのだ。確かに、第一次から第二次産業革命の時代（つまり蒸気機関の発明から電気エネルギーによる産業の発展の時代）、重厚長大型の工業社会は、均質で安定した労働力が産業の基盤だった。しかし、一九七〇年前後から始まった第三次産業革命（情報社会）、さらに二十一世紀以後の第四次産業革命（AIとIoTの時代）においては、むしろ多様な人々のアイデアの交流を通じた新たなイノベーションこそが、産業の軸になるといわれている。

実は、第二次産業革命IIものづくり産業の時代、国際的にも経済力を発揮した日本社会が、今や大きく停滞していることの大きな理由は、中央集権的で均質型の組織を、分権型で多様性を担保する組織へと転換できなかった点にある、ともいわれる。しかも、基幹部分を、男性だけで担っていたのも大きな問題だったと思う。

そう考えると、二十一世紀の日本社会の安定した成長、社会や組織の活性化を目指すなら、ダイバーシティ戦略は、私たちにとってきわめて重要な課題になるだろう。特に日本社会の場合、まず求められるのが、女性の参画であることも、様々なデータからも明らかだろう。

男女共同参画、日本の現状

しかし、日本の女性参画によるダイバーシティへの流れはお寒いばかりだ。世界経済フォーラムは、二〇〇六年からグローバルジェンダーギャップ指数（GGGI）を発表している。男女平等IIジェンダー平等の世界ランキングといてもいいだろう。二〇一八年十二月に発表されたこのランキングで、日本は世界百四十九カ国中百十位とわめて低いランキングになっている。健康、政治、経済、教育の四つの指標のうち、健康は世界トップクラスで問題はない。教育も高等学校までは世界第一位である。ただし、今後の新たな産業社会の基盤となる大学型高等教育では百三位ときわめて低い（大学進学率全体でもOECD〈経済協力開発機構〉の加盟国の平均以下である。日本はすでに教育大国などではないことは、きちんと肝に命じておくべきことだろう）。政治も女性の国会議員割合や閣僚割合が低く百二十五位、経済も女性の管理職割合の低さなどから百十七位と国際的にみても最低レベルだ。少なくとも女性の社会参画という視点から見ると、日本のダイバーシティ度は、国際的にみてもきわめて低いといわざるをえない。

そもそも、なぜ世界経済フォーラムが男女平等度のランキングをここ数年発表しているのだろうか。世界経済フォーラムが人権団体でないことは明らかだ。この団体が考えていることはただ一つ、経済の安定した成長だ。実際このグローバルジェンダーギャップ指数の分析で、世界経済フォーラムはこの指数と一人当たりGDPの相関図を示している。これで見ると明らかにジェンダー平等傾向の国の方が一人当たりGDPが高い傾向を示すのだ。つまり、経済成長に男女共同参画は不可欠な要因なのだ。

男性が変わる、男性を変える必要性

日本社会がもう一度活気をとりもどし、少子高齢社会に対応するためにも男女共同参画は必須の課題だ。その意味で、今、男性に求められていることは、変化を怖がることなく、「勇氣」をもって現代の変化の波を冷静に見つめ直し、自分自身を変革することなのだ。それこそ「男らしく」、古い「男らしさ」の鎧（よろい）から脱皮することが問われているといってもいいだろう。

なかでも重要なのは、男性の生活の面での自立と精神的な自立なのだと思う。これまで、男性たちは、生活の面で女性に徹底して依存してきた。「男に料理ができるか」「洗濯物を干すなんて男には無理だ」「育児は女の仕事だ」と、生活面で「何もできない」ことを誇りにしている男性さえいる。これは見方を変えるときわめて「変」なことだ。というのも、自分が生活面で「無能」であることをいばっているのだから。

家事・育児・介護をめぐる作業は、たいていの男性には「できる」ことだ。そもそも料理や洗濯などは職業ということになれば、男性が担う場合も多い。「男には料理ができない」というなら、シェフといわれる人に女性が少ないことをどう説明するのだろうか。

男性の女性への依存は生活面だけではない。男性は身近な女性に精神面でも「甘え」てきたと考えられるからだ。六十歳代以上で妻に先立たれた男性の平均寿命が短くなることは、データの裏付けられている（読者の多くは身近にそうしたケースを経験されていることだろう）。ここには、妻を失うことで生じた生活面での男性の困難があるのだろうと思う。しかし、それだけではない。精神的な面で妻に「甘え」てきた男性たちの問題もあるはずだ。女性たちに対して「いばりながら甘えてきた」男性であるほど、妻の不在（喪失）はダメージが大きいのだろうと思う。それは男性の寿命を変えてしまうほどの力を秘めているのだ。

日本社会の安定と活気のためにも、今こそ「男が変わる、男を変える」ことが必須になっている。そのためには、男性たちは、まずこの問題に気づくことが必要だ。その上で、現状についての冷静な認識をもってもらわなければならない。さらに、これまで「男である自分がすることではない」と考えてきたことを、積極的に体験してもらおう。そこから、新たな気づきも生まれていくと思う。

男性の変化は、これからの社会、地域、家庭の新しい活気の一つの重要な課題なのだ。

いつ遭うか分からない「災害の時代」

この誌面はさんかく岡山の「さんかくカレッジ」基礎コースの講演に基づいて編集しています。

西日本豪雨で被災した
東区平島学区

■令和元年7月23日 「7月豪雨の時、ママたちが出来たこと」 岡山市立一宮公民館

力強かったママたちの支援活動

●助け合うお母さんの会



▲東区南古都の家屋浸水の様子

平成三十年七月の西日本豪雨で岡山市東区を流れる砂川の堤防が決壊し、流域の民家など二千二百戸余りが浸水した。特に同区平島学区では数多くの家屋が浸水、市民生活に深刻な影響を及ぼした。平島学区に隣接する同区瀬戸町江西、千種両学区を中心に、幼い子どもを持つ母親らが「助け合うお母さんの会」（代表枝広真祐子さん）東区瀬戸町旭ヶ丘）を素早く結成。支援活動を手がけ、現在も週一回、親子が過ごせる居場所づくりに取り組んでいる。このユニークな一連の活動に市民の注目が集まっている。

活動のきっかけは、枝広さんによる友人の救助だった。集中豪雨に見舞われた平成三十年七月六日の翌七日朝、枝広さんが平島学区の友人宅に支援物資を届けに駆け付けた。しかし、砂川の堤防が決壊し水があふれ、一帯の民家が浸水して近づけず、すぐ自宅に戻りゴムボートを用意。友人親子をやっと救出することができた。

その時、平島学区の水害の大きさに驚き、少しでも被災者の力になりたいと思った。そして無料通信アプリを利用して「ママ友グループ」に支援物資や支援



▲被災した子どもたちへの支援活動

当初は平島学区に隣接の瀬戸町江西、千種両学区を中心に幼い子どもを持つ母親約六十人で支援活動を提供した。

地域や家族に感謝
枝広さんは、災害から一年経過した令和元年七月から市立一宮公民館などで「7月豪雨の時、ママたちが出来たこと」とのテーマで講演した。枝広さんは「一緒に食事を作って食べるなど地域の人々が集まって憩える場になれば」と話している。



▲活動のメンバー

活動を始めた。支援活動の運営にはメンバーのコミュニケーションを大切に、毎日無料通信アプリを利用して活動状況や連絡事項などをリアルタイムで共有した。活動していくうちに地域の人々や団体、企業なども応援し始め、「支援の輪」は大きく広がった。今はメンバー約八十人で活動を続けている。現在は毎週水曜日の午後にはメンバーが集まって楽しく活動しており、親子の居場所として利用されている。これから活動を繰り広げ、子育てや防災をテーマにした講演や映画会を予定している。枝広さんは「一緒に食事を作って食べるなど地域の人々が集まって憩える場になれば」と話している。

岡山市立東公民館

■令和元年9月13日 「女性が知っておきたい防災の話」

女性視点で高める防災力

●関西学院大 災害復興制度研究所指定研究員 斉藤 容子さん



阪神・淡路大震災（平成七年一月）から「災害の時代」といわれている。昨年（平成三十年）も大阪府北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震と大災害が相次ぎ、この間八万二千

高い女性の死亡率

大きな災害が発生した際、男女の違いによってどのような問題が生じるのか。チリ地震やバングラデシュのサイクロン（台風による高波の被害）、阪神・淡路大震災等の今までの災害による調査から、女性は男性よりも死亡率が高いことが分かっている。バングラデシュのサイクロンでは、結婚をした女性は、一人で避難所に行かずに、夫や義理の父親が自分を安全な所へ連れて行ってくれるのを待っている間に死んでしまったというケースが目立った。社会の中に女性が決める権利がなかったり、教育を受けられなかったりという国は、災害時に女性が多く亡くなる傾向がある。また阪神・淡路大震災で兵庫県では六千四百一人が亡くなり、そのうち女性が三千六百八十人（五七・五％）で、男性

より女性が千人近く多く亡くなった。女性は非正規での雇用が多く、年金額も低く年若い独り暮らしになった時、住居の建て替えや修繕費のねん出が難しく、住居の耐震性の問題から、特に高齢女性の被害が多いといわれている。災害時に女性の方が多く亡くなる背景には、このような男女による生涯賃金などの格差があると考えられる。

強まる性別役割分担

避難所生活では、男女の違いによる問題が顕著となっている。避難所の運営は主に男性が行っているのが現状であり、そこに参画する女性は極めて少数である。その結果女性の更衣室や洗濯物の干し場、授乳スペースなど男性では気付きにくく、女性や乳幼児への対応に反映されにくい。

また男性はがれきの撤去のような日雇いの仕事を与えられる。しかし女性は避難所に残って炊き出しや掃除、高齢者や子どものケアといった無償労働を強いられ、男女間による性別役割分担が強化される。非正規職として働く女性たちは解雇のリスクが高くなり、仕事を持っている女性たちも預け先がなかったり、職場に駆けつけるのに時間がかかり、人事に影響が出たりする。

ただ熊本地震（平成二十八年四月）の時、最大の避難所（熊本県益城町）では、女性がリーダーをしており、女性や子どものスペースが確保されていた。また働いている母親や仕事に行かなければならない公務員などへの互助的サポートもうまくいっていた。

女性への暴力

女性に対する性被害や配偶者からの暴力（DV）なども報告されている。夫が離職により酒を飲み始め、身体的暴力が始まる。そして義援金や支援金は世帯主の夫に渡されており、それを妻に渡さないという経済的暴力も起きている。さらに女性が避難所でのリーダー的立場の男性や住まいを提供する親類男性らから見返りとして体を求められるというケースもある。体を触られたり、着替えをのぞかれる、といったセクハラ事例も報告されている。セクハラにあつてもリーダーに「あなただけが不幸なのではない」と被害者の苦しみが過小評価され、「二次的災害」にもつながっている。

東日本大震災の教訓

東日本大震災で得た多くの教訓によって、国の防災基本計画に、避難所運営への女性の参画や更衣室・授乳室の設置、生理用品の備えといった細かな部分まで配慮されるようになった。それでも女性の参画は未だ不十分であり、平常時からの防災会議への参画が求められている。男性の視点も大事だが、災害の教訓から女性の視点も大切だということを知っていただきたい。大きな災害ではいろいろな被災者があり、ニーズは一人ひとり違う。安全、安心なまちづくりはみんなが参画し、みんなの視点で進めていかなければならない。そして一人ひとりの防災力が上がれば、地域の防災力が上がる。

岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例 (さんかく条例) 改正 (平成 31 年 4 月)

～性別等にかかわらず市民一人ひとりの個性が輝く

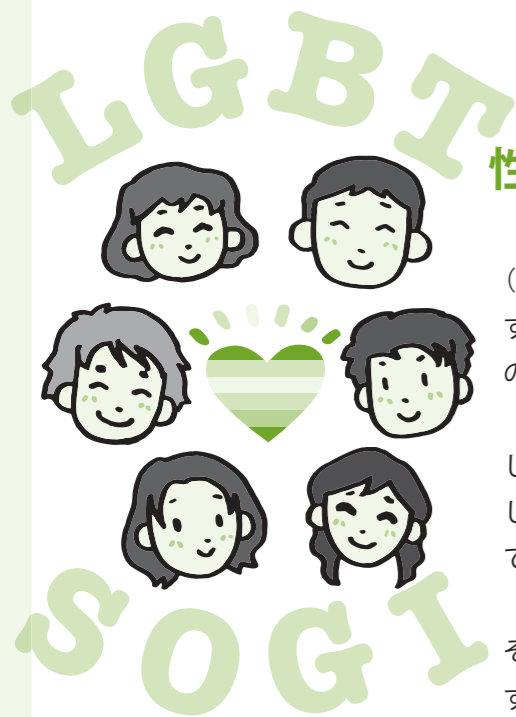
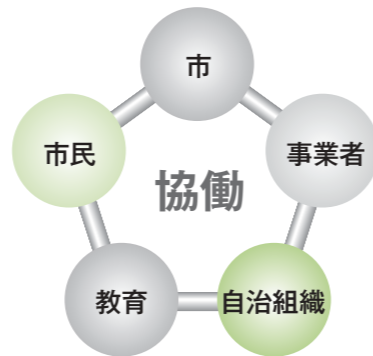
「住みよいまち、住みたいまち (=男女共同参画社会)」を目指して～

改正ポイント

- ①女性活躍及びワーク・ライフ・バランスの推進
- ②自治組織等における男女共同参画の推進
- ③性の多様性の尊重

基本理念

- ㊦性別等による差別をなくし、全ての人の個人としての尊厳を尊重
- ①性別による固定的な役割分担意識を解消
- ②家庭生活における活動とその他の活動との両立
- ③政策・方針の立案及び決定に、性別等にかかわらず全ての人が参画
- ④互いの性を理解し、性と生殖に関する自己決定を尊重し健康に配慮
- ⑤国際社会における取組との協調・連携
- ⑥市、市民、自治組織、事業者が、教育を含むあらゆる場において協働



性の多様性について

ひとの性のあり方は、「からだの性」、「こころの性(性自認)」、「好きになる性(性的指向)」、「性役割(女らしさ、男らしさ)」など、様々な要素で構成されます。これらの要素は「女」「男」に二分できないグラデーションになっていて、その人がどの辺りに位置するかは、一人ひとり異なります(性の多様性)。

こうした性のあり方は人格の重要な要素で、無理に変えることはできませんし、変える必要もありません。現在の日本では「からだの性とこころの性は同じ」「異性を好きになる」などの前提にあてはまらない人は、人生の様々な場面で悩みを抱えることがあります。

「さんかく条例」の目的は、「市民一人ひとりの個性が輝く」まちの創造です。そのためには従来の「男女平等」の考え方だけではなく、「性の多様性」を尊重する考え方を盛り込む必要があると考えて、条例を改正しました。

*LGBT … レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字。なお、「性的マイノリティ」とほぼ同じく、この4つにあてはまらない広い意味でも用いられています。
*SOGI … Sexual Orientation (性的指向) and Gender Identity (性自認) の頭文字。性のあり方について、すべての人を含めたグラデーションを考えることができる概念。

告知 さんかくウィーク 2020 岡山市男女共同参画推進週間

テーマ▶「みんなが主役 個性^{はばた}よ翔け さんかく社会」

オープニングイベント▶ 2020年 6月7日(日) 記念イベント▶ 2020年 6月21日(日)

※さんかくウィーク期間中は、上記日程以外にさんかく岡山、公民館、図書館など市内各所で様々なイベントを開催いたします。
令和2年6月21日から27日を「さんかくウィーク(男女共同参画推進週間)」と定め、前後1週間を含めた約3週間の期間中、男女共同参画への理解を深めていただくための様々なイベントを開催します。詳しくは5月上旬に、女性が輝くまちづくり推進課ホームページやさんかく岡山、各区役所、公民館などで配布するチラシをご覧ください。

さんかくウィーク 2019 で開催したイベント▶



男女共同参画社会の形成の促進に関する事業者表彰

岡山市は雇用の分野における男女共同参画の形成の促進を図るために、積極的に取り組んでいる事業者を表彰しています。

令和元年度 表彰事業者のご紹介

一般財団法人 淳風会

理事長 原 一穂 氏



(写真の表彰者は代理)

一般財団法人淳風会は、職員の子育て、介護にかかる費用を補助するなど福利厚生制度の充実を図り、仕事と育児・介護の両立を支援するとともに、女性の執行役員を女性活躍プロジェクトリーダーに選任し、職場の働き方改革の推進や女性の健康支援などに取り組んでいます。

さらに、子育て中の女性のために託児サービス付健診事業を行うなど、女性の健康を守る取組を行っています。このように、職員の仕事と育児・介護の両立を支援するとともに、女性の健診受診率の向上に積極的に取り組んでいることを高く評価いたしました。

過去に表彰された企業▶



岡山市女性が輝く男女共同参画推進事業所の認証ロゴマークが決定しました!

女性の活躍促進や仕事と家庭の両立支援など、職場における男女共同参画を推進している市内企業等を、岡山市長が認証しています。



認証された企業には「男女ともに働きやすい職場づくりを推進している企業」である印として、このロゴマークが付与されます。

認証企業一覧▶



編集委員のちよっと一言

一人ひとりが主体的に

今回の防災に関する記事を編集しているその最中に日本各地で大きな災害が発生したことで、記事を通して伝えたい内容も大きく変わり、そしてまだまだ他人事であったと痛感しました。災害時男女関係なく主体的に行動することは口で言うほど簡単ではありませんが、この災害の時代に生き抜くために必要な力として身につけていきたいです。(佃 奈美子)

災害時の教訓を生かしていきたい
今回、男女共同参画の視点から防災を考えたことはとても有意義でした。災害の時代に生きる私たちは、平時の関係が力ギになるようです。いざというときに性別ではなく、一人ひとりが個人として力を出せる共同体でありたいと願います。(N)

未来へ繋げる豊かな社会へ

男女共同参画社会は、家庭や職場のみならず、新たに起る時代の変化や天災時にも必要不可欠であり、男女の寿命差に及ぶほどの影響力を持ち合わせていると感じました。今後、一人ひとりが男女共同参画により一層、問題意識を向け考えながら行動することが豊かな社会を創造する一歩につながるはずです。(加藤 京子)

最大級のテーマ


男女共同参画社会の実現……。少子高齢社会を迎え、今世紀最大級の社会的テーマと言える。しかし、課題が山積。専門家の間では「まず男性の生活、意識改革が先決」との指摘が多い。早期実現に向け男性優位の社会システムや慣習を抜本的に改める時機だと思っただが。(藤田 学)

岡山市男女共同参画相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）

相談窓口のご案内 **DV やセクハラなどの悩み話してみませんか**

～もっとあなたらしく生きるために～
あなたの秘密は守ります。
安心してお電話ください。

- ★夫婦・親子・恋人・家族関係などで悩んでいる
- ★地域・職場・学校などで人間関係に悩んでいる（セクハラ等）
- ★夫・妻・パートナー・交際相手から暴力を受けている（DV等）
- ★自分のセクシュアリティについて悩んでいる（LGBT等）



相談ほっとライン
☎ 086-803-3366

相談受付時間

月・水～土 / 10:00～19:30
日・祝 / 10:00～16:30
休日 / 火曜日、年末年始

DVで緊急に逃げる必要がある時は、上記受付時間にかかわらず、相談ほっとラインにお電話ください（24時間対応）。
《危険が迫っている時は110番へ》

岡山市男女共同参画社会推進センター

いらっしやい さんかく岡山へ

「さんかく岡山」は、年齢や性別を問わず、どなたでも気軽にご利用いただける施設です。岡山市の男女共同参画を推進するための活動拠点として、関連する様々な講座やイベントも開催しています。ぜひ、お立ち寄りください。

講座・イベント等のさんかく岡山の施設情報はこちらから
http://www.city.okayama.jp/shimin/danjo/danjo_00050.html



会議室
(有料・要予約)
最大100人までご利用いただけます。

ミーティングルーム
(無料・要予約)
3人以上のグループで3時間まで利用できます。グループでの自主学習などにぜひどうぞ。

展示ギャラリー
(無料・要予約)
市民のみなさんへ作品を発表できる場を無料で提供しています。

図書
1回5冊まで。
貸出期間は2週間です。

託児室 (有料・予約制)
生後6か月～就学前のお子さんを3時間までお預かりします。買い物などの際にもご利用いただけます。

Free Wi-Fi
Available in all areas.

さんかく岡山の事業


男女共同参画社会を目指す人材の養成や、企業での女性活躍を目的とした講座、子ども向けの体験プログラムのほか、初めて利用される方も気軽に参加できる様々なイベントを開催しています。

▼「川柳作家時実新子は本当に悪女だったのか」

子どもさんかくゼミ

「デコ巻きずし教室」▲

さんかくマルシェ講演会



住所 〒700-0822
岡山市北区表町三丁目14-1-201
(アークスクエア表町2階)

電話 086-803-3355 **FAX** 086-803-3344

電子メール sankaku@city.okayama.lg.jp

ホームページ http://www.city.okayama.jp/shimin/danjo/danjo_00050.html

開館時間 月・水～土 / 9:30～20:00
日・祝 / 9:30～17:00

休館日 火曜日、年末年始（火曜日が祝日の場合は開館し、次の平日が休館となります。）



● この情報誌は、岡山市と市民公募の編集委員が協働で企画・編集しました。 ●